

たたかいはこれからだ

五十嵐 仁（法政大学大原社会問題研究所・前教授）

〔以下の論放は、『明るい長房』第139号、2014年8月1日
付に掲載されたものです。〕

「平和の党」の裏切り

集団的自衛権の行使をめざして、政府は閣議決定を強行しました。与党である公明党が賛

成に回ってしまったからです。これでは「平和の党」の看板が泣くでしょう。

反対していたのに賛成へと態度を変え、公明党は戦争できる国にするための決定に加わりました。「裏切った」わけです。

しかし、閣議決定は法律を制定したり変えたりしなければ実行できません。政府・与党は来年の通常国会で、これをやろうとしています。

国の進路は国民が決める

そうさせないためには、罰を与えて思い知らせなければなりません。滋賀県知事選挙が始まりです。選挙での与党候補の敗北や内閣支持率の低下などの形で、異議申し立ての機会を生かしましょう。

集団的自衛権の行使に反対するたたかいはこれからです。閣議決定は始まりにすぎません。国民多数の声を結集できれば戦争への道を阻むことは可能です。国の進路を決めるのは、政府ではなく主権者である私たち国民なのですから……。